

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0193000072		
法人名	株式会社 すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘 グループホーム（菜の花）		
所在地	北海道富良野市下御料1990番地2		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成30年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0193000072-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ごりょうの丘グループホームは、北海道の中心の富良野市にあり、周囲は春になると桜が満開になる朝日ヶ丘公園、富良野スキー場が見渡せる大自然に囲まれ、静かな環境に立地しています。施設の敷地内には、有料老人ホーム・10月から新規オープンしたグループホーム、併設された交流館・託児室・小規模多機能ホームがあり 施設間に中庭と施設内で飼っているウサギの遊び場も設置され夏場は入居者様と託児の子ども達と散歩や日光浴を楽しむことができます。 又、施設裏に野菜畑があり春の種まきから秋の収穫まで、季節を感じられる行事に子どもから入居者様まで生き生きと参加しています。

昨年より、地元の高校生が定期的にボランティアで来訪し、入居者様と中庭の花を定植したり冬季にはドライフラワーを用いて居室の飾り付けを一緒に行うなど一年中通し交流できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ごりょうの丘 グループホーム」は、雄大な自然に囲まれた富良野市にある開設3年目のグループホームである。建物内は、中庭が見渡せる明るい居間を中心に数か所にソファを配置し、一人ひとりの利用者が好きな場所でゆっくり自分の時間を過ごせるように工夫している。利用者と一緒に作成した季節感のある装飾は、家庭的な温もりが感じられる。管理者は、法人の経験年数に応じたフォローアップ研修などを活かしながら職員の資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。また、毎年全職員でグループホーム 目標を作成するなど、常に職員の意見や提案を反映させながら前向きな運営を行っている。各種書類を整備し、詳細に記録している。介護計画は、利用者担当職員が実施する毎月のモニタリングを活かしながら見直しを行い、外出や楽しみごとなど利用者一人ひとりの意向に沿った家庭的な個別ケアを実施している。職員として看護師を配置して日常の健康管理を行うと共に、受診に同行して主治医と連携しながら適切な医療支援に繋げている。利用者は、地域交流館で開催された味噌作りやパン作りに参加したり、高校生と花壇の花植えや焼き芋、南瓜のランタン作りを楽しむなど年間を通して外部の方々と交流を深めながら、法人で飼育する犬や兎と触れ合い笑顔で穏やかな日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23.24.25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9.10.19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18.38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36.37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30.31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関等に掲示したり、ネームの裏にも印刷して記載したりしていつでも確認を出来る様に共有している。また、その人らしい生活を続けられるよう支援している。	法人理念を基に、毎年グループホーム目標を全職員で作成している。今年度は「家族、地域が繋がった富良野の暮らし」という地域密着型サービスを意識した4項目の目標を掲げ、職員が常に意識できるように事業所内要所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事への参加をしたり、サロンやゴミ拾い、地域の学生との交流で、事業所でも催しを開催したりして地域との交流を行うように努めている。	連合町内会の運動会に参加したり、地域のコミュニティセンターで行われた子供の会のゲームの応援に出かけている。事業所の行事に、同法人が運営する託児室の子供たちが来訪して歌や踊りを披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のホームページやブログを作成したり、認知症カフェを開催して相談を受けたり、理解を深める場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組んでいる事や運営状況の報告を行い、助言や評価を受けて頂いて、サービスの向上に活かしている。	事業所からの報告を中心に、外部評価結果や地震時の状況報告、グループホームにおける課題などをテーマに開催している。今後は会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見も事前に聞き取り会議に活かしていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、地域ケア会議に参加することで地域との協力関係を築けるように努めている。	制度に関する確認をしたり、分からないことがあればその都度電話で相談している。介護保険の更新時にも担当者が来訪するため、相談したり情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の施錠は行っているが、希望があれば自由に外出出来る様配慮をしている。また、研修を開くことで身体拘束を行わないケアの方法について学ぶ場を設けている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、年1回禁止行為について研修を行っている。危険防止対策として、医師や家族と相談して夜間のみセンサーマットの使用を検討したり、ベッドの高さを調節しながら身体拘束をしないケアについて意見を交換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員間で共有し、心理的には日頃からのチェックを行なっていき、身体的には更衣時や入浴時に外傷等のチェックを行なう事で、虐待を行わない・させないように注意・防止に努めている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利制度等についての研修を行うことで、職員の知識理解を高める様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネージャーが契約時に、利用者及び家族に理解や納得を得られるように十分な説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様やご利用者様に参加して頂く事で意見や要望を上げて頂き、日常生活や運営に反映出来る様に努めている。	利用者の状況を全職員で把握し、家族が来訪した時はどの職員も対応できるようにしている。本人の近況を伝えながら意見や要望を聞き取り、介護記録や申し送りノートに記入して職員間で情報を共有している。	継続的に職員間で情報が共有できるように、家族の些細な思いや職員の気付きなどを個別に記録するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議を開くことで意見を聞いたり、個人で面談を行ったりして意見や提案を聞く事で、施設運営に反映出来る様努めている。	毎月合同会議やユニット会議を開催している。職員の提案を受けて会議の開催方法を変更したり、普段から職員の些細な意見や提案を尊重して適切なケアや運営ができるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が力を発揮出来る様に環境の整備を行なって、働きやすい環境を作れる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数やスキルに合った研修を内部で行なったり、外部での研修に参加することでスキルアップ出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設の方を研修にお招きしたりして、外部の施設の研修に参加をすることで、各々にサービスの質向上が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の生活歴を把握し、ご本人とコミュニケーションを取りながら、不安や要望を聞く事で、お互いに安心が出来る生活・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯や困っている事を伺い、ご家族様が不安に思っている事を解消。また、実行可能な要望を取り入れることでより良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族双方の意見・要望を聞く事で分析を行い、より良いサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様個人の経験を活かしつつ、その方が出来ることを分析。介護員とのコミュニケーションを緻密にすることで、両者共に友好的な関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない役割を理解しながら、必要な支援の方法を考えていく事で、職員とご家族様共に支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する事業所と連携し、通所で来られている方と面会できる機会を作ったり、ご家族や来客者が気軽に面会する事が出来る環境作りに努めている。	知人が来訪する方もいる。職員と一緒に馴染みのスーパーマーケットに買い物に出かけたり、お墓参りに行くこともある。家族と美容室や整骨院、好きな物を食べに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係・相性などを把握し、職員が間に入ったりすることでより良い関係になれるよう支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了時にはアルバム等をお渡しして思い出として手渡したりしている。契約終了以降も要望があれば相談を受けたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人のニーズに沿った支援に努め、困難な場合に関してはご本人と話し合っ、少しでも行いたい事に近づけるように配慮を行なっている。	普段の会話や以前の施設、家族からの情報を基に思いや意向を把握している。「そのひとらしさ」シートを新たに作成して、趣味や嗜好の変化も追記しながら6か月ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣、リズムなどを家族様や普段の行動から情報収集して把握し、把握した事を情報シートに記載する事で職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の行える事や生活リズム等を把握し、快適に過ごして頂けるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用する事で職員間の情報共有に努め、担当職員が関係者や家族様と話し合って意見などを反映。それらを元に介護計画を作成している。	毎月利用者担当職員がモニタリングを行い、変化が無ければ6か月ごとに介護計画を作成している。介護計画の見直しに活かせるように、毎月のモニタリング表の項目に番号も記入して分かりやすくしたいと考えている。	毎月のモニタリングや介護計画の見直しに活かせるように、日々の記録に介護計画の具体的な項目の番号を入れて変化や課題を記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事量・水分量・排泄状況を個別に記録し、ライフサポートプランに添った支援を行なっているかを職員間で確認を行なっ、計画や支援方法の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況に合わせた対応を行い、看護や地域の支援を受けられるような多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、町内会や地域の学生達などの協力を頂きながら、ご本人の力を発揮出来る様な暮らし作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の希望に添いつつ、適切な医療を受けられるようにかかりつけ医と情報共有を行いつつながら支援を行えるよう努めている。	利用開始前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。家族のみが受診支援する時は医師宛のシートを作成しているが、受診時は殆ど看護師が同行して本人の健康状態を主治医に伝えている。	

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を密にし、迅速な対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその方の生活情報などを病院に提供し、入院中にも面会などを通して情報収集、共有を行なう事で連携を密にして、退院後も病院と連携を取れるような関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人やご家族様に説明を行なっているが、利用者様の状況に合わせて医療・看護と話し合って連携することで、チームとして支援を行えるよう努めている。	「重度化対応に関する指針」を作成して、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて家族の意向を確認し、主治医と家族、事業所で方針を共有している。今後は看取りに向けて研修も考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習や初期対応訓練を行い、即時対応できる実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、隣接している施設との連携・協力体制の確認を行なっている。	毎年、年2回の避難訓練を実施しているが、今年度は地震災害があり、消防署の立ち会いの下に実施した夜間を想定した火災避難訓練1回のみになっている。運営推進会議で災害時の対応について話し合い、備蓄の不足品について確認している。	地震を想定し、事業所内の危険箇所の確認とケア別の対応について話し合うよう期待したい。また、災害時の防寒対策としての暖房方法について検討するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬意を忘れず、言葉使い等に気をつけながらケアにあたっている。	外部の講師による接遇マナーの法人研修に全職員が参加し、言葉がけなどを学んでいる。個人的なことは他者に聞こえない場所で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の生活環境に近づけるよう努め、その中でご本人の思いや希望を汲み取りつつ自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活習慣や希望に添いながら支援を行なえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の希望や過去の生活歴に沿いながら、着替えや整容を行い、理容や美容も通えるようにご家族様にも協力をお願いしながら支援を行なっている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に手伝って頂いたりする事で準備や片付けなどを行い、食事を摂る際にも皆さんが美味しく食べて頂ける様な環境作りを心がけている。	利用者と相談したり食材を見て、調理専門職員が作っている。個人や数人で好みのラーメンや蕎麦、寿司などの外食に出かけている。刺身や寿司の出前を取ることもあり、多彩な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事を提供出来る様に配慮し、適切な食事量・水分量を取れる様に支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいをして頂き、忘れている場合には声掛けを行なっている。また、歯科とも連携を取り、歯科往診を行なって頂きながら支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方にはパターンやサインを見極めて、適切なトイレ誘導やパット交換等を行なっている。	排泄への行動を見逃がさないように声かけや誘導を行い、失敗を少なくしている。日中はトイレでの排泄を支援し、下着やパッドを工夫し自力でできる利用者も多い。夜間は睡眠を妨げないように配慮し、可能な限りトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各人の排便状況を確認出来る様に記録をし、排便が無い場合は医師・看護師の指示を受けて下剤を使用している。運動を取り入れたり、食事や水分摂取の工夫を行なって自然排便を促せるよう支援も行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴をして頂ける様、利用者様の希望に合わせた対応を行なっている。また、支援が必要な利用者様に対しては同性で支援が行えるように努めている。	毎日入浴が可能で、午前、午後の時間帯に入浴し、夕方に見守りで入る方もいる。週2～3回の入浴を支援し、湯加減や時間の希望に沿って対応している。「おとこまつり」と称し、男性利用者に男性職員が同行し日帰り入浴に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方の工夫を行い、夜間帯に安眠できるよう工夫をしている。また、日中も安心して昼寝や休憩が出来る様な環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が服薬している薬の内容を把握し、職員間で情報共有を行なっている。薬の管理は看護師が行い、新しい薬が追加された際には看護師から職員へ説明出来る様な環境作りにも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事を活かした役割や楽しみごとをして頂いたりし、気分転換に外出等を行なって楽しく過ごして頂ける様に支援を行っている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(菜の花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出やご自宅への外泊はご家族様に協力をして頂きながら支援を行なっている。また、希望があれば地域行事等にも参加出来る様に配慮を行なっています。	近くの公園を散歩し、中庭で畑仕事をしたり収穫時に駐車場やテラスで焼き肉をして外気に触れている。スーパーマーケットで食材の調達を手伝ったり、個別の買い物に出かけている。季節の行事では上富良野のラベンダーや山部の桜並木などを観賞している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理を行なえる方はご自身で所持して頂き、管理が難しい方には職員がサポートする事で希望に応じた金銭の使い方が出来る様に支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の同意を得た上で電話連絡を行えるように支援を行なっている。希望があれば、便箋等を用意をするなどの配慮も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔を心掛け、業者の方に清掃を行なって頂いたり、利用者様と職員が共に行ったりして清潔を保てる様に努めている。また、季節感を採りいれて居心地の良い空間を作るよう配慮も行っています。	共用空間の窓から中庭の花壇や畑、東屋を見ることができ、暖かい時期には東屋で外気に触れ季節を感じている。一人や数人で過ごせるスペースもあり、3ヶ所のトイレや廊下は掃除が行き届いて清潔感もある。壁には利用者と一緒に作成した季節の貼り絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で過ごせる空間の他に、一人で座れるベンチや椅子を用意して、その時の気分に合わせて過ごして頂ける様な環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が普段の生活時に使っていたタンス等を用意して、少しでも居心地がよくなるような空間・環境づくりに努めている。	居室にはクローゼットと洗面台が備えてあり、馴染みのタンスや藤の物入れ、テレビなどが持ち込まれている。壁にはカレンダーなどが飾ってある。洗面台に花を飾ったり、読書を楽しむなど、本人の安心できる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が出来ることやわかることを把握し、安全に過ごして頂ける様な環境づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0193000072		
法人名	株式会社 すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘 グループホーム（イチョウ）		
所在地	北海道富良野市下御料1990番地2		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成30年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ごりょうの丘グループホームは、北海道の中心の富良野市にあり、周囲は春になると桜が満開になる朝日ヶ丘公園、富良野スキー場が見渡せる大自然に囲まれ、静かな環境に立地しています。施設の敷地内には、有料老人ホーム・10月から新規オープンしたグループホーム、併設された交流館・託児室・小規模多機能ホームがあり 施設間に中庭と施設内で飼っているウサギの遊び場も設置され夏場は入居者様と託児の子ども達と散歩や日光浴を楽しむことができます。 又、施設裏に野菜畑があり春の種まきから秋の収穫まで、季節を感じられる行事に子どもから入居者様まで生き生きと参加しています。

昨年より、地元の高校生が定期的にボランティアで来訪し、入居者様と中庭の花を定植したり冬季にはドライフラワーを用いて居室の飾り付けを一緒に行うなど一年中通し交流できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関等に掲示したり、ネームの裏にも印刷して記載したりしていつでも確認を出来る様に共有している。また、その人らしい生活を続けられるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事への参加をしたり、サロンやゴミ拾い、地域の学生との交流で、事業所でも催しを開催したりして地域との交流を行うように努めている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のホームページやブログを作成したり、認知症カフェを開催して相談を受けたり、理解を深める場を設けている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組んでいる事や運営状況の報告を行い、助言や評価を受けて頂いて、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、地域ケア会議に参加することで地域との協力関係を築けるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の施錠は行っているが、希望があれば自由に外出出来る様配慮をしている。また、研修を開くことで身体拘束を行わないケアの方法について学ぶ場を設けている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員間で共有し、心理的には日頃からのチェックを行なっていく、身体的には更衣時や入浴時に外傷等のチェックを行なう事で、虐待を行わない・させないよう注意・防止に努めている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利制度等についての研修を行うことで、職員の知識理解を高める様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネージャーが契約時に、利用者及び家族に理解や納得を得られるように十分な説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様やご利用者様に参加して頂く事で意見や要望を上げて頂き、日常生活や運営に反映出来る様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議を開くことで意見を聞いたり、個人で面談を行なったりして意見や提案を聞く事で、施設運営に反映出来る様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が力を発揮出来る様に環境の整備を行なっており、働きやすい環境を作れる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数やスキルに合った研修を内部で行なったり、外部での研修に参加することでスキルアップ出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設の方を研修にお招きしたりして、外部の施設の研修に参加をすることで、各々にサービスの質向上が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の生活歴を把握し、ご本人とコミュニケーションを取りながら、不安や要望を聞く事で、お互いに安心が出来る生活・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯や困っている事を伺い、ご家族様が不安に思っている事を解消。また、実行可能な要望を取り入れることでより良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族双方の意見・要望を聞く事で分析を行い、より良いサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様個人の経験を活かしつつ、その方が出来ることを分析。介護員とのコミュニケーションを緻密にすることで、両者共に友好的な関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない役割を理解しながら、必要な支援の方法を考えていく事で、職員とご家族様共に支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する事業所と連携し、通所で来られている方と面会できる機会を作ったり、ご家族や来客者が気軽に面会する事が出来る環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係・相性などを把握し、職員が間に入ったりすることでより良い関係になれるよう支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了時にはアルバム等をお渡しして思い出として手渡したりしている。契約終了以降も要望があれば相談を受けたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人のニーズに沿った支援に努め、困難な場合に関してはご本人と話し合っ、少しでも行いたい事に近づけるように配慮を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣、リズムなどを家族様や普段の行動から情報収集して把握し、把握した事を情報シートに記載する事で職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の行える事や生活リズム等を把握し、快適に過ごして頂けるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用する事で職員間の情報共有に努め、担当職員が関係者や家族様と話し合って意見などを反映。それらを元に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事量・水分量・排泄状況を個別に記録し、ライフサポートプランに添った支援を行なっているかを職員間で確認を行なっ、計画や支援方法の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況に合わせた対応を行い、看護や地域の支援を受けられるような多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、町内会や地域の学生達などの協力を頂きながら、ご本人の力を発揮出来る様な暮らし作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の希望に添いつつ、適切な医療を受けられるようにかかりつけ医と情報共有を行いながら支援を行えるよう努めている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を密にし、迅速な対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその方の生活情報などを病院に提供し、入院中にも面会などを通して情報収集、共有を行なう事で連携を密にして、退院後も病院と連携を取れるような関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人やご家族様に説明を行なっているが、利用者様の状況に合わせて医療・看護と話し合って連携することで、チームとして支援を行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習や初期対応訓練を行い、即時対応できる実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、隣接している施設との連携・協力体制の確認を行なっている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬意を忘れず、言葉使い等に気をつけながらケアにあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の生活環境に近づけるよう努め、その中でご本人の思いや希望を汲み取りつつ自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活習慣や希望に添いながら支援を行なえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の希望や過去の生活歴に沿いながら、着替えや整容を行い、理容や美容も通えるようにご家族様にも協力をお願いしながら支援を行なっている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に手伝って頂いたりする事で準備や片付けなどを行い、食事を摂る際にも皆さんが美味しく食べて頂ける様な環境作りを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事を提供出来る様に配慮し、適切な食事量・水分量を取れる様に支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいをして頂き、忘れている場合には声掛けを行なっている。また、歯科とも連携を取り、歯科往診を行なって頂きながら支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方にはパターンやサインを見極めて、適切なトイレ誘導やパット交換等を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各人の排便状況を確認出来る様に記録をし、排便が無い場合は医師・看護師の指示を受けて下剤を使用している。運動を取り入れたり、食事や水分摂取の工夫を行なって自然排便を促せるよう支援も行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴をして頂ける様、利用者様の希望に合わせた対応を行なっている。また、支援が必要な利用者様に対しては同性で支援が行えるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方の工夫を行い、夜間帯に安眠できるよう工夫をしている。また、日中も安心して昼寝や休憩が出来る様な環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が服薬している薬の内容を把握し、職員間で情報共有を行なっている。薬の管理は看護師が行い、新しい薬が追加された際には看護師から職員へ説明出来る様な環境作りにも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事を活かした役割や楽しみごとをして頂いたりし、気分転換に外出等を行なって楽しく過ごして頂ける様に支援を行っている。		

ごりょうの丘 グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出やご自宅への外泊はご家族様に協力をして頂きながら支援を行なっている。また、希望があれば地域行事等にも参加出来る様に配慮を行なっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理を行なえる方はご自身で所持して頂き、管理が難しい方には職員がサポートする事で希望に応じた金銭の使い方が出来る様に支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の同意を得た上で電話連絡を行えるように支援を行なっている。希望があれば、便箋等を用意をするなどの配慮も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔を心掛け、業者の方に清掃を行なって頂いたり、利用者様と職員が共に行ったりして清潔を保てる様に努めている。また、季節感を採りいれて居心地の良い空間を作るよう配慮も行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で過ごせる空間の他に、一人で座れるベンチや椅子を用意して、その時の気分に合わせて過ごして頂ける様な環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が普段の生活時に使っていたタンス等を用意して、少しでも居心地がよくなるような空間・環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が出来ることやわかることを把握し、安全に過ごして頂ける様な環境づくりに努めている。		

目標達成計画

事業所名 ごりょうの丘グループホーム

作成日：平成 30年 11月 26日

市町村受理日：平成 30年 11月 26日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	【運営に関する利用者、家族等意見の反映】 ・職員間の引継ぎが途切れている。 ・ご家族からの意見や苦情の重要性・認識が薄い。家族が面会に来られても、意見交換を含めて家族支援ができていない。詳細な記録が残っていない。	どんな些細な意見や相談苦情を、職員間で共有できるように介護記録(日々の記録の他、苦情相談シートなど)・引継ぎノート・口頭といった3項目に必ず徹するようにし、共有していく。	①勤務前に必ず引継ぎノート・介護記録に目を通し、口頭の送りで再度職員間で確認を行い情報共有を徹底する。(再度、不明な点や理解できないことがあれば発信者に必ず確認を行う。) ②ご家族との連絡を密に行い信頼関係を構築すると共に、情報は必ず記録に残し共有を徹底する。	直ぐに取 組み～3 か月
2	26	【チームでつくる介護計画とモニタリング】 ・利用者様個々のライフサポートプランの理解と把握ができていない為、日々のケアに結びついていないことと記録もプラン番号を付けて記載が必要。 ・プランに沿ったモニタリングの実施が必要であり、記録時にプラン番号が必要。	ライフサポートプラン(計画・記録・モニタリング)についての理解を深め、個々の利用者ごとの計画書を全職員が把握するための取組みを実施する。また、継続性を持って実施するため、カンファレンスを丁寧に実施して、本人・家族・職員の情報共有を徹底する。	①ライフサポートワークについて全員で学ぶ ②プランのファイリング先を、毎時に確認する水分・排泄チェック表と一緒にして職員が随時目を通し、プランに沿った取り組みと介護記録に記録をする。また、いつもと変化が出ていれば、変化のあったところの文字を色付けして変化を見逃さない記録を残し、モニタリングに活かす。	3か月
3	35	【災害対策】 ・ケア時(入浴中・排泄中など)の対応が、個別に細かく検討されていない。 ・災害時の備蓄品(暖を取る、照明等)の準備が不足している。 ・緊急時の対応が職員に教育徹底されていない。	避難訓練の参加、災害に備えた暖房機器・避難道具などの準備を法人全体で協議し、どんな時でも対応できる準備・道具の設置してある場所を職員全員が把握していく。	①年2回の避難訓練での学び。別の機会に会議などを話し合いをして職員間での危機意識を学ぶ。また、ケア別対応方法を検討する。 ②季節に応じていつでも対応できるように、必要な物品の選定等を法人全体で協議する。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。